

JR東海労なごや

2020年11月15日No.1179
JR東海労名古屋地方本部
発行者：荻野隆一
編集者：教宣部

ちょっと、まてえ

今年の期末手当交渉、労働組合の真価が問われる！

11月11日、JR東海の期末手当の回答がありました。

もちろん、私たちJR東海労は組合員の要求とはあまりにもかけ離れていたため、即刻再申し入れしています。

JR東海ユニオンの要求額は何だったのか

一方、JR東海ユニオンは早々と妥結しています。ユニオン業務速報によると、「労使関係、組合員・社員の尽力」を踏まえているとしてますが、本末転倒ではないでしょうか。

労働組合は何があっても組合員の利益優先ではないのでしょうか。ユニオン業務速報にあるようにユニオンは組合員の要求より労使関係が優先していることが露見してしまいました。

そもそもユニオンの期末手当の要求額とかけ離れてはいませんか。私たちJR東海労は組合員の切実な要求を元に、交渉を続けることにしました。それは、組合員の要求を踏まえているからです。確かに、コロナ禍において経営状況は厳しくなっています。しかし、社長会見では財務体質は大丈夫だと言っています。

私たち東海労は、リニア、役員報酬など高額な支出から手をつけるべきだと考えています。とにもかくにも、組合員はローンの返済、新しい年に向けての支出など多くあります。

今回の手当の交渉でユニオンの姿勢がより鮮明になりました。JR東海で働く社員の皆さん、このような労働組合でいいのですか。労働組合は会社に忠誠より組合員の利益です。

役員幹部よりおおきなリスクの上、汗して働いています。そのような組合員の気持ちを代弁できない労働組合はいらない。

コロナ禍の中、感染リスクの最前線で奮闘しているのは現場の社員だ！